

「令和7年度 ほくと・ななえ 医療・介護連携多職種研修」
「令和6年度 函館市医療・介護連携『急変時対応研修会』」動画公開
アンケート集計結果

【函館市】

n = 64 (回収率41.3%)

閲覧件数 155件

1. 所属機関をお聞かせください。(複数回答可)

・医療機関	4	(6.3%)
・介護機関	59	(92.2%)
・その他	1	(1.6%)
合計	64	(100.0%)

2. 今回の研修はいかがでしたか？

・よかった	63	(98.4%)
・どちらともいえない	0	(0.0%)
・よくなかった	1	(1.6%)
・無回答	0	(0.0%)
合計	64	(100.0%)

3. 参加いただいた方々の職種・人数をお聞かせください。(複数回答可)

・医師	0	(0.0%)
・歯科医師	0	(0.0%)
・薬剤師	3	(4.2%)
・保健師	0	(0.0%)
・看護師	4	(5.6%)
・ケアマネジャー	18	(25.0%)
・相談員	3	(4.2%)
・介護職員	39	(54.2%)
・歯科衛生士	0	(0.0%)
・栄養士	0	(0.0%)
・リハビリスタッフ	0	(0.0%)
・柔道整復師	1	(1.4%)
・鍼灸師・マッサージ師	0	(0.0%)
・福祉用具関連	0	(0.0%)
・事務員	1	(1.4%)
・教員	0	(0.0%)
・学生	0	(0.0%)
・その他	3	(4.2%)

〔施設長1名〕
〔無回答2名〕

合計	72	
----	----	--

【ご意見等】

【介護機関】

<ケアマネジャー>

- ・それぞれの立場の方からの急変時の対応を聴けて参考になりました。事前に本人、家族と話し合っているにも実際に急変すると家族も話し合っていた事と違う事を主張したりしてなかなか対応が難しいと思います。
- ・ACPの重要性が認識でき、また主治医や各専門職との連携、信頼性の重要性、必要性が大切だという事が改めて勉強になりました。
- ・ケアマネになり立ての初心者ですが、ケアマネとして利用者、御家族、医師等と連携していくことの難しさが凄く理解出来た。
- ・緊急時の対応だけではなく、その前の取り組みや準備、さらに事例も上げて具体的に考えることができて、とても良かったです。また、事例、特に居宅いろはさんの例は利用者様を中心に皆が支え合い、山あり谷ありで最後まで支援できたことと、その間での多職種の葛藤を共有することができた素晴らしい事例であったと思います。
- ・緊急時の対応だけではなく、その前の取り組みや準備、さらに事例も上げて具体的に考えることができて、とても良かったです。また、事例、特に居宅いろはさんの例は利用者様を中心に皆が支え合い、山あり谷ありで最後まで支援できたことと、その間での多職種の葛藤を共有することができた素晴らしい事例であったと思います。
- ・それぞれの立場でのお話の中に、他職種とのかかわりもみえて、どうすることが正解か、結果は出ませんが、自分ならどうするかを考える機会が持てました。

<相談員>

- ・ACPIについて改めて考える機会になりました。

<介護職員>

- ・自分たちだけではなく、関わっている人みんなが『その人らしく』とはどうあるべきかを考えながら、一生懸命に動いてくれていることを改めて実感できました。
- ・わかりやすかったです。
- ・他施設、病院、ケアマネジャーの実際の体験やご苦労を拝聴する機会がなかったので、とても参考になりました。自分が知らないだけでそれぞれの立場や状況で、様々なご苦労があるのだと思うと自分が大変だと思っていた事は、まだまだ恵まれていたのだと気づかされる事が多かったです。又、終末期 看取りの話や勉強会がありますが、実際の体験談を拝聴して個々の思い・希望をどれだけ理解し叶える為に動けていただろうかと反省をしました。これから益々超高齢者社会になっていき、自身も又同様に老いてゆきます。どう生き、どう死ぬのか今一度我が事として考えていきたいと思いました。
- ・出向いての研修よりも時間を有効に使い、在宅でのそれぞれの仕事内容の確認ができて勉強になりました。
- ・利用者様の疾患を理解して急変した場合に備えておくようにしたい。
- ・在宅の介護看護医療の連携、チームの情報共有、勉強になった。自分の仕事に役立てたい。
- ・急変時の対応など迅速に対処出来るよう普段からシュミレーションしておくことが大切だと思いました。
- ・急変や突発的な怪我等、介護職員には常に不安がつき物で、やはり日ごろからの医療職との連携、情報共有が大切だと改めて感じました。また、いざという時のご本人、ご家族の意向を1度だけではなく、様々な場面で確認し認識しなければならぬと思いました。
- ・急変時の対応にはいつも悩まされています
正解がない…その時にできることを考えて行っていますが、あとから振り返り他にできることはなかったかな？と後悔もあります。ACPはとても重要だと思います 本人家族周りの支えているみんなが後悔ないようにその人らしさを守ってあげられる存在になりたいと動画を見て感じました。
- ・急変時の考え方、個人の向き合い方を学習する事が出来ました。事例を元に研修が進められており対応の難しさや、その人らしさを尊重した対応を学ぶことが出来て良かったです。
- ・薬情報の他にも既往歴、認知症の有無などの情報の更新も大切だと思いました。
- ・事前に相談が出きる状態にない時に緊急事案がある場合に、情報の収集、どの様に行動するか、共有事項があれば、不安の軽減につながると思いました。
- ・実際の事例を交えての話のためイメージしやすく話が聞けました。
- ・動画視聴の方が参加しやすいので今回のような研修が多いとありがたいです。
- ・大変勉強になりました。

<薬剤師>

- ・最後まで家でという願いに寄り添う医療介護者の努力や気持ちを聞く事ができ、よかった。またそのためには課題もあり、マンパワーが必要だとも感じました。
- ・業務終了が遅い為いつも受講できずにいました。この度動画配信されていることを知り聴講できて良かったです。薬剤師が急変時に何が出来るかは分りませんが、利用者さまの気持ちに寄り添える仕事ができるようになればと思います。

<看護師>

- ・施設で急変があった際に困った事に似た事例があり、自分がどうすべきか再確認できた。
- ・異なる職種のお話を聞くことが出来て大変勉強になりました。座長のお話にもあった通り病院や介護施設がお互いの状況等を考慮して連携出来るようになればと思います。ACPについては委員会で検討しているところでしたので講演の内容を持ち帰って活かしていきたいと思っています。

<その他>

- ・在宅での急変時の対応について勉強させていただきました。施設とは違う環境で、それぞれの専門職の努力や苦悩がわかり大変参考になりました。お疲れ様でした。
- ・急変時対応について学びたく参加させて頂きました。実体験に基づいた講話を頂き、在宅・施設で暮らす方々の最期の時に向けた計画的な対応を学ばせていただきました。拒否をされる本人に対する支援者としての長期的な関わり、解決にむけた関係者との共有、医療の協力、家族や取り巻く環境など、決して短期間では対応できるものではない部分について考えさせられた内容となります。どちらも最期を迎えてしまいましたが、関係者目線からすると幸せな生き方ができて幸せだったんだと感じました。日常から小さな変化をキャッチすること、今後の人生に向けたACPの実施など当施設においても共通できるところも発見できて非常に勉強になりました。

*多数同意あり、まとめて掲載しております。

4. 研修会の希望について

【介護機関】

<ケアマネジャー>

- ・困難事例検討会
- ・認知症の利用者様や単身の利用者様が、医療的な判断を求められたときに本人が困難な場合はどうしたらよいのかについて

<介護職員>

- ・なかなか実際に足を運ぶ事が出来ないことが多いので、このような配信があるととても助かります。
- ・看取りケア、接遇
- ・高齢者の病気・症例・治療法・看取りなど。
- ・認知症や意思疎通の出来ない方との係わり、コミュニケーションについて
- ・ACP 認知症ケア(最新の)
- ・他職種の連携、地域の連携について学びたいです。
- ・認知症の方への関わり方の勉強ができればいいと思います。

【その他】

- ・高齢者の生きがいに関する取り組み
- ・ウェルビーイングについて
- ・今回のように様々な職種の方のお話を聞くことが出来る機会があれば参加したいと思います。

<薬剤師>

- ・認知症の方の対応。
業務終了後に会場に向かっても着くのが研修会の終わり際になってしまいます。今後も動画を配信していただけると助かります。

ご協力ありがとうございました。